

# はじめに

昨年は7月の洪水、10月の中越地震と、めったにないような天災を2度も経験することになりました。震災による校舎の復旧工事が夏休みに行われたため、昨年からは教室や準備室の清掃や物品の移動や片付けを何度も行うことになりました。震災のため、例年にはない多くの作業をしなければならなかった中越地区の教員の苦勞については、あまり語られることはありませんが、忘れられてはならないことでしょう。

近年、附属学校園は春、秋の教育実習に加え、多様な実習を受けいれており、後進の育成についてもこれまで以上に大きな期待が寄せられています。

そして本年度、長岡地区附属学校園が3年前から取り組んできた文部科学省研究指定の科学教育研究開発が完成年を迎えます。それと平行して幼稚園、小、中学校共通して設定した「創造的な知性を培う」研究は本年度2年次となります。「科学教育」と「創造的な知性を培う」ことはまったく別のものでなく、感じたものを理論化し、新たな概念と応用力を持つことができるよう教育を構想するとき、ひとつのものにとらえることができるのです。教育研究協議会では完成した研究というより、可変的な運動態として、この時点で得られた成果を公開することになります。研究協議会では授業公開と分科会での提案に対し、皆様方から忌憚のないご意見、ご批評を頂き、今後の教育研究の向上に努めたいと考えています。

これまで研究を進めるにあたり、同人をはじめ各方面からご教示をいただいたことに心から感謝申し上げます。

新潟大学教育人間科学部附属長岡小学校長

近 藤 フヂエ